

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200770		
法人名	医療法人社団 飯盛会		
事業所名	グループホーム いいもり		
所在地	福岡市西区飯盛664-1		
自己評価作成日	H29.7.20	評価結果確定日	平成29年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamapp/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/a0open?OpenAgent&JN0=4071200770&SYC=0001096&BJN=00&OC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成29年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑に囲まれたのどかな環境の下、入居者は散歩や周辺地域の行事等に出かけ、思い思いに過ごして頂いている。病院併設であり、定期受診や急変時の相談を行っている。また、周辺病院との医療連携を図り、ターミナルケア時の訪問診療を利用できるようにしている。最近には月に1回外食を実施したり、夏祭りや秋の大運動会等、入居者ご家族参加のイベントも充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

信頼と安らぎのある温かい家庭的な生活空間作りを目指して、母体の医療法人は3年計画のビジョンを作り居宅部目標を掲げ、グループホームの理念に基づき具体策を考え、月ごとのケア目標を決めて職員に明確な行動指針を示し、更に評価をおこなっている事業所である。施設開設当初から勤めている職員や10年以上勤めている職員が12人と大変多く、横の繋がりが出来てアットホームな雰囲気と家族から言ってもらえ、職員は長く働き続けられる職場環境であると話している。職員研修は年間計画に基づいて、勤務の一環で外部研修に行きその後内部研修を行い、より良い支援ができるように人材育成に力を入れておりスキルアップを心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の唱和とカンファレンスにおいて理念に基づいた目標を毎月立て、実践し月毎に評価している	医療法人が3年毎に作っているビジョンを基に、専門性を高め安心して信頼できる介護の提供を行うことを目標とし、施設独自の月ごとの目標を掲げ現場の職員に行動指針を示し、更に評価しており、理念に基づく介護を行う努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	グループホームの行事に地域の方々を招き交流している。飯盛神社の行事や町内会の清掃、サロン等にも参加している。	以前は地域住民へのアプローチも試みていた。最近は地域行事への参加を積極的にしている。入居者が、不穏にならないことを前提に顔なじみの方々と参加し、地域の方に受け入れてもらえるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議においてグループホームや認知症について知って頂いたり、外部講師を招き、健康講習を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開き、地域の方、ご家族、いきいきセンターの方に参加して頂いている。行事、近況報告のほか避難訓練や健康教室などを行っている。又、会議の内容などカンファレンスで話し合っている。	丁寧に記録された会議議事録を確認し、インシデント、アクシデントが包み隠さず報告されていた。会議の中で、口腔ケアの話や避難訓練を行い参加者の活発な意見も出ている。	施設玄関に運営推進会議議事録を置いて見ることができるよう配慮していたが、全ての家族に向けて報告する姿勢を見せるよう、配布する事を検討してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を開き、話し合いの場を作っている。又、いとの会に入会しており、グループホーム同士の連携をはかり、市職員との意見交換を行っている。	近隣地区での同業者の会に数年前から入り、空き部屋情報、配食サービスのことなど、様々な情報交換をしている。地域密着型サービスを実践し入居者の支援に繋がるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、得た知識を勉強会で報告、グループホームとしての方針を決め、職員全員が共有できるようにしている。入居者の希望に添って外出したり、散歩に出られる機会を作っている。	訪問調査時には、入居者の方達が散歩に行くため皆さん笑顔で玄関先のアプローチにおられた。現状は施設玄関は防犯上の施錠を行っている。身体拘束をしないケアのために、外部・内部研修の年間計画があり実施した資料と記録を確認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、勉強会やカンファレンスにて報告会を開き、職員間でも注意、指摘しあえる関係作りに取り組んでいる。又、院外研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修に参加し、得た知識を職員にも報告する場を作り、ご家族に対しても要望があれば説明をしている。	現在成年後見制度利用者があり、入居者の安心した生活ができるように支援を行なっている。外部研修後、他の職員にも制度を理解できるように報告している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に記載し、契約時に十分に説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、入居者様の変化に目を配り、日常的に話を聞く機会を作っている。	普段の生活の中で、様々な入居者のこだわりを第一に考え、同時に家族の要望を聞き、出来る事を施設として対応している。勤務年数が長い職員が多くいるため、入居者・家族ともに話しやすい関係が出来ている。	運営推進会議参加や来設する家族は固定化してきているので、色々な意見を出しやすくするために、最近ではされていない家族アンケートを実施して家族の思いを知る体制づくりを期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場リーダーの意見を聞き、現場の意見もリーダーを通じて取り入れている。	午後から30分のカンファを行い、入居者の様子を細かく申し送りノートに書き、同じ様に業務用のノートにも申し送りをしている記録を確認した。8月のケア目標としている、気付きを見つけ、記録をし情報共有をすることが実践出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常時滞在し、代表者に毎日の朝礼で報告・相談を行っている。代表者は人事考課にて評価し、よりよい職場環境作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の募集、採用にあたっては性別・年齢など採用対象にしていな。また、各職員がその能力を活かし、職員が自己アピールできる場であるよう環境作りに努めている。	職員は大変働き易い職場と話していた。開設以来10数年勤めている職員は12人と多く、個人に応じたスキルアップを考えている。年に2回、人事考課で個人面接をして、職員は自己評価を行い管理者が把握をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	人権擁護委員会に出席、院外研修に参加し、他職員へ報告している。	担当職員は2ヶ月毎の委員会に参加して、職務で外部研修に行き、その後内部研修をしている記録を確認した。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ごとに必要とされる外部研修の参加や毎月の院外研修への参加を呼び掛けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いとの会(GH情報交換会)に加盟しており、情報共有している。又、4.7ネット(西第4.7医療福祉ネットワーク研修会)の研修会や協会、市などが主催の研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設長各職員が目を配り声を掛け、気にかかる方には個別の時間を作り、話を聞き関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃からご家族の意向を聞き、その意向を反映するようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と相談をしながら、必要なサービスを利用できるよう努めている。ケアプランを説明し、コピーを渡している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での出来る事(炊事・洗濯・掃除)を職員と一緒にしながら、その日その日の生活を共有している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会やその他の行事にご家族と一緒に過ごせる機会を作り、情報交換を密にし、コミュニケーションを取りながらケアにも参加してもらえよう働きかけている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類、友人との手紙の代筆や電話の取次ぎを行っている。またいつでも訪問できるようにしており、クリスマス会、夏祭り等交流の機会を作っている。	現在施設で生活している入居者同士が数人で近くへ散歩に行ったり、各ユニットのホワイトボードには、今日の担当職員の顔写真を貼っていたり、この施設での顔なじみを作っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様同士の散歩や食事の席を同じにしたり、家事参加を呼びかけ合い入居者様同士がかばい合い支え合っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には契約書に添った説明を十分に行い、退去後も不安解消の為、相談に応じている。また運営推進会議にも出席してもらう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを優先し、出来る限り希望や意向を取り入れるよう努めている。	入居時の基本情報を参考にしながら、日常ケアの中での気づきや聴き取った思いなどを、カンファレンスや情報共有ノートの活用で、職員全体が把握できるようにしている。長く勤める職員が、入居者とのやりとりの中から変化を感じ取ることも多い。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を大切にしながら、ご本人やご家族からの情報を元にして、把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが出来る事を出来る範囲で、自由に発揮できるように支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い、計画作成担当者と受け持ち担当者が介護計画を作成している。面会時等ご家族と面談する機会を持ち、ご本人ご家族の意向を取り入れるよう努めている。	定期的なモニタリングとカンファレンス及び主治医の意見を基に、原案を作成し本人や家族に説明している。なかなか来設できない家族には電話で希望や意向を聞き計画の見直しも行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのカルテに日々の変化、表情などを記録し、各職員が共有出来るようにしている。カンファレンスノートや申し送りノートも活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望を聞き、外出や個々の趣味などにおける、ご本人らしい時間を過ごしてもらえよう支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣神社の行事に参加している。またカフェやコンビニ、ショッピングモールに出かけ、楽しみを見つけ、自分らしく生きて行けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院、近隣病院との交流を積極的に行い、説明情報提供を行っている。又、看取り時は訪問診療を利用している。	併設病院への定期受診には管理者が付き添い、バイタルサインや日々の様子を報告している。受診時の医師の指示や服薬内容の変更があれば、電話などで家族に連絡している。	医師からの指示や変更などが無い場合は特に何も家族に伝えていないとのことであった。家族の安心感が一層得られるように、毎月の様子を家族に送る際に、一言でも記入することを期待したい。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護職員が週に1回訪問し、入居者様の健康管理、医療活用に活かしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院、近隣病院との交流を積極的に行い、説明、情報提供を行っている。地域の病院との情報交換を行い、退院後の対応を含めた相談をしている。		
35	(15)	う 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を取り入れ、職員が出来る範囲で具体策(訪問等)を挙げ、ご家族には十分な説明を行った上で、医師を交え同意書の作成方針を話し合い、チームとしての支援が出来る体制を取り入れている。	最近2件の看取りを行った。終末期の対応については、入居時に説明するとともに、時期が来たときは再度詳しく説明し、承諾してもらっている。ベテラン職員がシフトを調整するなどして、家族に安心感を与えるようにしている。また、看取り対応の学習会を開き、職員が戸惑わないようにしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内研修で緊急時の対策を医師又は看護師より説明、訓練を受け、出席出来ない職員はレポートを提出している。グループホームで起こりうる事故防止と対策を一覧表にして、職員の目の届くところに貼っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会で意見交換を行い、マニュアルに添って年2回避難訓練を行っている。非常食、水やその他の防災備品を備蓄している。	夜間の火災を想定した直近の避難訓練が、運営推進会議の時間に行われた。参加した職員や家族の感想と消防署の助言などにより、有意義な訓練だったことが、議事録で確認できた。施設出入口近くに非常食が備蓄しており、緊急時にすぐに取り出せるよう配慮されていた。避難誘導が安全に行えるように、自立歩行・車いすなどのイラストが居室入り口に貼られていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対し、各職員が人生の先輩であるという認識を持ち、常に言葉遣い等に配慮している。	個人を尊重するために言葉使いには注意しており、職員同士も常に指摘しあえる関係ができていますが、家族から「少し気になる」と意見をもらったことをきっかけに、すぐにカンファレンスで話し合い改善した。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴の姿勢で入居者様と向かい合い、出来る範囲で自己決定を促し、主体的にコミュニケーションを取り、納得いくまで話し合っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりに合ったペースで過ごせるように配慮している。また入居者様を優先する事を常に意識し、ケアの中に業務を上手く融合している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を選んでもらったり、職員が身だしなみを整えている。月に1度訪問理容を受けているが、希望者は望む店に行けるようにしている。また外出や行事の時はお化粧をするようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の残存能力に応じて、準備や片付けなど協力し行っている。献立で嫌いな物やアレルギーがある時は別メニューで行っている。刻み食やトロミをつけ、ムセなどないよう支援している。	外注の副食の温めや盛りつけは、入居者にも手伝ってもらっている。食後の下膳も手早く行っている入居者の姿があった。普段の食事以外の楽しみとしては、夏祭りでのたこ焼き作りや外食に出かけている。過去のインシデントの教訓を活かし、食形態や介助方法などを改善し実践している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量や水分のチェックを行っている。摂取量の少ない人には十分取って頂ける様、こまめに声掛けを行い、コップの工夫などしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後の洗面時、食後の歯磨き、入れ歯の洗浄をしたり、声掛けにて促している。又、職員が磨き残しがないか確認し、磨き残しがあれば介助している。また、併設病院の歯科にて歯磨き指導を受ける事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々のリズムに合わせ、声掛けを行いトイレ誘導を行っている。排泄による不快を軽減するべく、ご本人に合わせたオムツの調節、トイレで排泄して頂ける様努めている。	排泄行為の自立者は多いが、排泄表や情報共有ノートを活用し、声かけの仕方やタイミングを工夫して、なるべくトイレでの排泄ができるようにしている。スムーズな排泄ができるように、牛乳を含む水分量の確保やゼリーでの工夫を行い、両ユニット間の往復歩行や日課の外歩きなどで運動量の確保にも工夫している。2時間ごとのトイレ清掃が徹底されており、清潔感があつた。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表の活用、職員が重要性を理解し、普段から水分補給や運動を意識し、個々に応じた薬の調節を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	出来るだけ本人の希望を取り入れ入浴できるように取り組んでいる。拒否が見られる方には声掛け、タイミング、足浴等工夫している。	週に2~3回の入浴が主であるが、本人の希望も大切にしている。医師の指示で保湿剤を塗布することもある。入浴拒否が見られた場合は、無理強いすることなく、時間をおいたり担当職員を替えたりして気持ち良く入浴できるように工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動や入浴、レク等過ごし方を見直し、馴染みの寝具を利用したり、飲み物を用意するなどし、安心して自然な眠りにつなげられるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋、お薬手帳をカルテに保管し、職員がいつでも確認出来るようにしている。申し送りを徹底、職員一人一人が薬の目的、重要性を理解し支援を行っている。又、服薬の際は複数の職員で声出し確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の活動の中に散歩や体操レクを取り入れ、趣味や生活歴を活かし、家事、手伝い、カラオケ、歌番組、民謡サークル等その方に合った楽しみを見つけ支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら、毎日近隣に散歩に出かけ、外食やドライブを企画し、ご家族参加での花見、忘年会を実施し、交流の機会を作っている。	月に一回のドライブでは、福岡タワーやひまわり畑・コスモス畑などに出かけた。日常的には、数人のグループや個別での散歩を行っている。調査当日も、大きな帽子をかぶって賑やかに出かける様子が見られた。家に帰りたいたいという希望した方を、家につれて帰ったところ安心したようで、以後は落ち着いて生活されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じ希望や必要があれば、カフェにパンを買いに行ったり、ショッピングセンターに衣類や雑貨を一緒に買いに行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話したり、電話を取り次ぐようにしている。季節の挨拶や行事のお知らせには、ご本人に名前やコメントを書いていただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と入居者が一緒に作った作品を飾ったり、TV前にはソファを配置し、一緒にくつろぎ、ビデオを見たり、お茶やおやつを食べながら話せるスペースを設けている。	リビングダイニングには、入居者と一緒に作った作品が多数飾ってあり、季節行事などの写真からは、日々をどのように過ごしているのかを知ることができた。中庭で飼っている犬と散歩することを楽しみにしている入居者もいるとのことだった。玄関に置かれた狸や猫の置物が、訪問者をあたたかく出迎えているような雰囲気を感じさせてくれた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名が座れるソファや一人がけのリクライニングシートの設置、円卓やテーブルを数か所に配置し、思い思いの場所で過ごす空間づくりをしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や仏壇等を持ち込み、写真や思い出の品を飾っている。	居室入り口の引き戸には障子の小窓がついており、引き戸を開けなくても入居者とコミュニケーションがとれるようになっていた。ベッドと棚は備え付けだが、使い慣れた家具や小さな仏壇などを持ち込んで自分らしい部屋ができおり、大きな窓からの光が開放感を与えていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレに手すり、浴槽には手すり、滑り止めを設置している。台所にはIHヒーターを採用し、流し台、洗面台は入居者のサイズにしている。		